

# 人権啓発センター だより

平成28年3月

No.27



## 雑感

作家「藤沢周平」の読み物が好きで随分と読んだ。最近彼の『三屋清左衛門残日録』という作品をTVドラマ化したものを観ることがあった。清左衛門が隠居してから「日残り昏ルルニ未ダ遠シ」という思いを持ってつけ始めた日記の名称が「残日録」である。この時、清左衛門52歳、今、私は67歳。物語の中の彼は15歳も下なのに逆に15歳くらい上を感じる。この「ギャップ」は「老成度」なのか生きてきた「時の質」のちがいのなかその中身はよくわからない。

どこかで「今の人の年齢に0.7を乗じたら当時の人の年齢に沿う」というようなことを読んだことがある。そうすると私は当時でいうと47歳、

清左衛門より5歳下。逆に清左衛門は今の年齢に換算すると74歳。私より7歳上。思わず首肯してしまう。

「フィクションの中の人物設定でないか」という声が聞こえてきそうだけれども、当時の人と現代の私たちとのこの「実年齢での老成度のようなものの差」は実感として私には残る。この違いを生むのは何なんだろうかと思う。社会全体が情報の「発信出力」のみアップし続けて、一人ひとりの身の回りに生起する小さなものごとから受け取る「受信感度」が落ちているのではないか、それが「時の質」を薄めているのではないか、そんなことを考えている。

(研修講師 竹村)



## 人権あれこれ

～差別は誰も幸せにしない～

昨年、大阪、兵庫、京都の3府県において、大量の差別文書がばらまかれるという事象が発生したと聞いた。配布された文書は3種類で1,849枚にも及び、特定の職業を列挙し、「賤しい仕事」であるかのような表記や同和地区の地名を名ざしのうえ、賤称語を書いて地区住民を誹謗中傷するものなどが郵便受けに投函されていたそうだ。

このことを聞いて、平成3年に高知県内で特定個人宅やその周辺地域に差別葉書が投函されるという事象が起こったことを思い出した。その時の葉書の内容は、部落差別を利用して個人を誹謗中傷するものであった。しかも、葉書の差出人が教職員であったことが後日分かり、当時大きな問題となった。当該教職員がこのようなことを行った理由は、子どものことでトラブルがあり、相手

の親を中傷するために差別葉書を書いて投函するという行為に至ったと記憶しているが、部落差別が社会の意識として厳しく存在していることが明らかになった事象であった。

今回の大阪などでの差別文書は誰が、どのような理由で書いて配布したのか現時点では判明していないが、3府県に合計1,849枚もの文書を配布するという異常さからも、行為者が根深い差別意識にとらわれて正常な判断ができなくなっていることがわかる。平成3年の事象の時も感じたことであるが、部落差別は同和地区住民を深く傷つけるだけではない。差別意識にとらわれている行為者も自分自身を傷つけている差別の犠牲者となっている。「差別は誰も幸せにしない」ということを改めて考えさせられた。

(研修講師 藤本)



# じんけんライブラリー

## 一押し本

### 『大人の発達障害ってそういうことだったのか』

宮岡 等 (みやおか ひとし) 内山登紀夫 (うちやま ときお) / 著  
医学書院 (2,800 円+税)

「大人の発達障害」をテーマに、一般精神科医（宮岡等氏）と発達障害診療の専門家（内山登紀夫氏）が徹底的に語り合った対談録。「そもそも発達障害って何なの？」という根本的な疑問から、「治療方法は？」といった専門的・臨床的な疑問まで幅広く議論し、答えの見つからない問題についても可能な限り白黒はっきりさせることを試んでいます。この2人のコラボだからこそできた一冊です。

(企画啓発課 佐伯)



## ちょっといい話

人間だけが笑う動物といわれる。落語家の桂文珍氏によれば、人は昔から笑いの文化を培い人間関係の潤滑油にしてきたという。『今昔物語』におもしろい物語が書かれている。笑いが信仰の世界と結びつき、お坊さんがおもしろいことを話して人を集め説教した。そのうち、「説教はいらんからおもしろいことを言うて」と人びとが求め、落語家が誕生した。身分制度があった時代には、笑いに風刺や皮肉を込めて庶民が「下から上を笑った」。その精神は、今も新聞のコラムに生きついでいる。教育の世界でも「笑い」についてもっと研究実践をすべきと思う。

.....(略).....

笑いをいかに子どもと共有して、より質の高いところにもっていけるか。楽しく学ぶことを「笑育」と呼ぶ。学力の基本は「読み書き計算、ボケ・ツッコミ」である。ユーモアのセンスは、教師の資質向上に欠かせない。

学級の中の笑いを大切にしたい楽しい学校生活が過ごせれば最高である。

※『教育Do it! 動詞で考える学級・学校づくりのヒント』

明石一郎 解放出版社より

(研修企画課 山本)



## 事業報告

### 平成27年度人権啓発研修ハートフルセミナーを開催しました

#### 「知っておきたいLGBT～職場のダイバーシティ最前線～」

講師：村木真紀さん（NPO 法人虹色ダイバーシティ代表）

日時 平成28年1月16日（土）14時～16時

会場 高知県立人権啓発センター6階ホール

参加者数 73名

平成26年に続いてのLGBTをテーマとしたハートフルセミナーでしたが、社会的な関心も高まっており、前回は20名以上を超える参加者がありました。

講師からは、人口の7.6%がLGBTの当事者であるという2015年のデータを始め、「LGBTの職場における困難」「同性愛の歴史」「求められる企業の取り組み」「日本の現状」「国レベルのLGBT支援」「行政のLGBT支援」「カミングアウトされたら…」「差別的言動への対応」「お客様への配慮」など、さまざまな内容がわかりやすく説明されました。

参加者からも、アンケート項目の「大変良かった」「良かった」が98%となるなど大変好評で、たくさん感想が寄せられました。



#### 〈アンケートより〉

◇大学にて心理学を専攻しています。より、人に対する理解、接し方などの振り返りに役立ちました。さらに、知識を増やし、理解していきたいと思いました。ありがとうございます。

◇自分がLGBTであってもなくても、いろいろな人たちに配慮できるようになりたいと思うし、その方たちの良き理解者に近づければと思っています。

◇LGBTの方の実際の体験やデータをまじえての説明が理解しやすく良かったです。特別に見るのではなく、常に相手の目線で考え、行動することが大切だと感じました。

◇今日の講演やセンスの良い企業広告、素敵な動画CMでこういうものが増えるとさらにプラスイメージになると改めて思いました。

◇LGBTとは何かを理解することができ、LGBTはグローバルな問題であり、日本は先進国の中でも対応が遅れているということを理解することができました。これからは、発言にも注意して生活していきたいと思います。

◇LGBTの人はまわりにいるという認識をもって生活しようと思う。いろいろな人がいるからこそ世の中はおもしろいのだと思う。その人の生き方が尊いのです。それをおかしいとかいう方が絶対にまちがっています。

（企画啓発課 宮田）



# Information お知らせ

## 研修講師派遣のご案内

### 研修講師、出前します！

当センターでは、自治体や企業・団体などの職場で、また、地域の方々の集まりで行われる人権に関する研修に講師を派遣しています。

- \* 講師料は要りません。  
(但し、交通費の実費をご負担ください)
- \* 人権問題に関心がある、人間関係をよくしたい、自分を高めたいなど、いろいろな研修の集まりに、多彩なメニュー、新しいプログラムの研修をご提供します。
- \* 派遣の申し込みは、来所または電話や電子メールにて受け付けております。詳細はご相談ください。

人権研修のための  
**出前講座**  
講師派遣料 **無料**  
講師がお伺いします！

県内のあらゆる集まりに  
ご活用下さい！

職場 地域 PTA

人権問題に関心がある  
人間関係を良くしたい  
自分を高めたい  
教育の一環に取り入れたい

まずはお気軽にご相談下さい！  
講座内容などは裏面をご覧ください。

(公財)高知県人権啓発センター  
高知市本町4-1-37 TEL (088)821-4681  
http://www.kochi-jinken.or.jp  
●月～金曜日 / 8:30～17:15 電話・Mail でご相談 (土・日・祝日休み)



## じんけんライブラリー 利用案内

図書、視聴覚教材の貸し出しを無料で  
行っていますのでぜひご利用ください

- 図書  
1人5冊以内で、期間は2週間以内です。
- ビデオ・DVD  
1人2巻以内で、期間は2週間以内です。
- パネル  
1人3セット以内で、期間は1カ月以内です。  
※ 直接来所できない場合は送付いたします。  
(送料は利用者のご負担となります)



## ホール案内

各種研修会等にご利用ください

- 収容人員  
270名 (机を使用する場合は180名)
- 設備  
放送設備、スクリーン、冷暖房
- その他  
使用料、利用時間等についてはHPでご確認ください。

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp HP : http://www.kochi-jinken.or.jp